

1 基本計画の位置付け

伊東市では、図書館サービスの中核を担ってきた伊東図書館が築40年を超えるほか、様々な課題を抱えていることから、より高度な図書館サービスやICTの活用を通じた新たなサービスを提供する新図書館の建設に向けた検討を進めてきました。さらに、多様化・高度化する利用者ニーズに対応するとともに、コミュニティ醸成の場を提供するため、図書館機能・生涯学習センター機能を併せ持つ施設として、伊東図書館及び生涯学習センター中央会館の移転を検討しており、令和3年3月に策定した「伊東市新図書館基本構想」では、新図書館のコンセプトを

『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点～

と設定しました。

本計画では、「伊東市新図書館基本構想」を踏まえ、新図書館の整備に向けた詳細な検討を行い、市民が「未来を拓く」ことのできる図書館の実現を目指します。

2 新図書館の基本的な考え方

新図書館の目指す姿

- 地域の情報を集約し、新図書館において拡充が必要な7つの機能・サービスを結び付ける役割を持ち、誰もが活用できるエリア「**まちのミュージアム**」を施設の中心部に構築
- 郷土資料を中心に、市内に点在している自然資源、歴史文化資源、観光資源に関する情報や、市民活動の記録・成果等も「まちの情報」と位置付け、「まちのミュージアム」に集約・編集・発信
- 「まちの情報」との出会いを通じて、利用者の活動が施設内外で生まれ、新たな「まちの情報」を創造

サービスの基本的な考え方

- 新図書館で提供するサービスの4つの軸は以下のとおり

地域の魅力発信：「まちのミュージアム」等を通じた伊東に関する様々な情報・資料の収集・提供や魅力発信
知との偶然の出会いを誘発する選書と配架：幅広い資料の収集及び思いがけない本との出会いを誘発する配架
創造を生み出す活動と情報の一体的な提供：本・情報とスペース・活動等の一体的な提供
ICTによる新たな体験の提供：ICTの活用を通じた利便性の向上や創造的な活動等の促進

施設整備の基本的な考え方

- 施設整備において重視する考え方は以下のとおり

フロアによる静と動のゾーニング：動的な活動（低層階）から静的な活動（上層階）へと段階的なゾーニング
「まちのミュージアム」を軸としたフロア構成：各フロアに配置する「まちのミュージアム」を媒介とした機能融合
利用者の興味を広げる機能配置：利用者の興味の連鎖を誘発する各コーナーの配置の工夫
活動と情報が一体となるコーナー配置：活動・作品展示等が可能なスペースと関連資料の書架の一体的な配置

3 サービス計画

サービスの検討

- 「まちのミュージアム」を幹とした新図書館でのサービス及び市全域のサービスについて下表のとおり検討
- 新図書館では、生涯学習センター中央会館の統合を通じて従来の図書館機能と生涯学習機能を融合し、1つの施設として充実したサービスを提供
- 市全域のサービスについては、実施に向けて十分な検討を続け、新図書館の開館時または開館後の将来的なサービス拡充に備えて計画

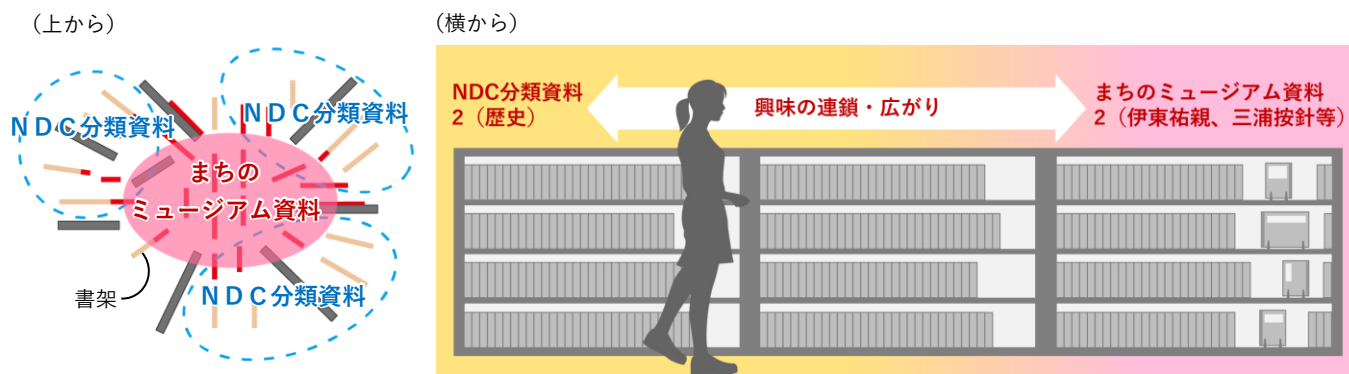
表 新図書館及び市全域のサービス

項目		サービス
新図書館のサービス	地域の魅力発信	- 郷土資料の拡充及び展示等による積極的な活用 - ものづくりワークショップ等を通じた伊東文化の創造やその結果のアーカイブ - 地域・観光情報の発信 - イベント等を通じた地域産業の魅力発信 等
	知との偶然の出会いを誘発する選書と配架	- 利用者の興味の連鎖を促す「まちのミュージアム」を通じた配架の工夫 - 地域課題や利用者ニーズに応じた多様な資料の収集 - 講座・イベントに応じた資料展示や手に取りやすい本の展示・配架 等
	創造を生み出す活動と情報の一体的な提供	- 諸室の活動内容に応じた資料の配架 - 多世代交流が可能な諸室整備やイベント開催 - 気軽に立ち寄れる施設づくり及び手に取りやすい資料の配架 - 子ども向け行事・イベントの充実 - イベント時の一時保育 - 中高生のニーズに応えた企画展示 - レファレンスサービスの実施 - 子どもや中高生がのびのびと過ごせる空間づくり - 個人での学習・読書やグループ学習が可能な環境整備 - コワーキングスペースとビジネス関連資料の一体的な提供 等
	ICTによる新たな体験の提供	- ICTタグシステムや座席管理システムの導入 - 電子図書館の導入 - 地域資料のデジタルアーカイブ - デジタル工作機器の設置 - デジタルサイネージの設置 - インターネット利用環境等の整備 等
	その他のサービス	- 障がい者サービスの充実 - 多文化サービスの充実 等
市全域のサービス		- 市内遠隔地域でのサテライトサービスの検討 - 多様な媒体を通じた情報発信 - 移動図書館等を活用したアウトリーチサービスの検討 - 近隣図書館や市内関連機関等との地域連携 - 市内教育・子育て機関との連携 - 使いやすく十分な規模の駐車場の確保 - 大原児童図書館の機能統合の検討 - 市役所が保存している歴史的公文書の移管 等

まちのミュージアム資料

- 従来の郷土資料に加え、観光に関する資料や市民の活動記録、伊東から連想される資料等を「まちのミュージアム資料」と位置付けて幅広く収集
- 「まちのミュージアム資料」はNDC分類※を踏まえて分類し、通常資料のそれぞれの分類とゆるやかにつながるように配架することで、利用者の自然な興味の連鎖や活動の広がりを誘発

図 NDC分類資料と「まちのミュージアム資料」をつなぐ各フロアの配架イメージ



※NDC（日本十進分類法）：図書を主題ごとにグループ分けし、0～9のアラビア数字で表す図書分類法

4 施設整備計画

諸室の考え方

- 新図書館に必要な諸室は下表のとおりで、用途の類似する諸室の統合・多目的化を通じて機能融合を促進

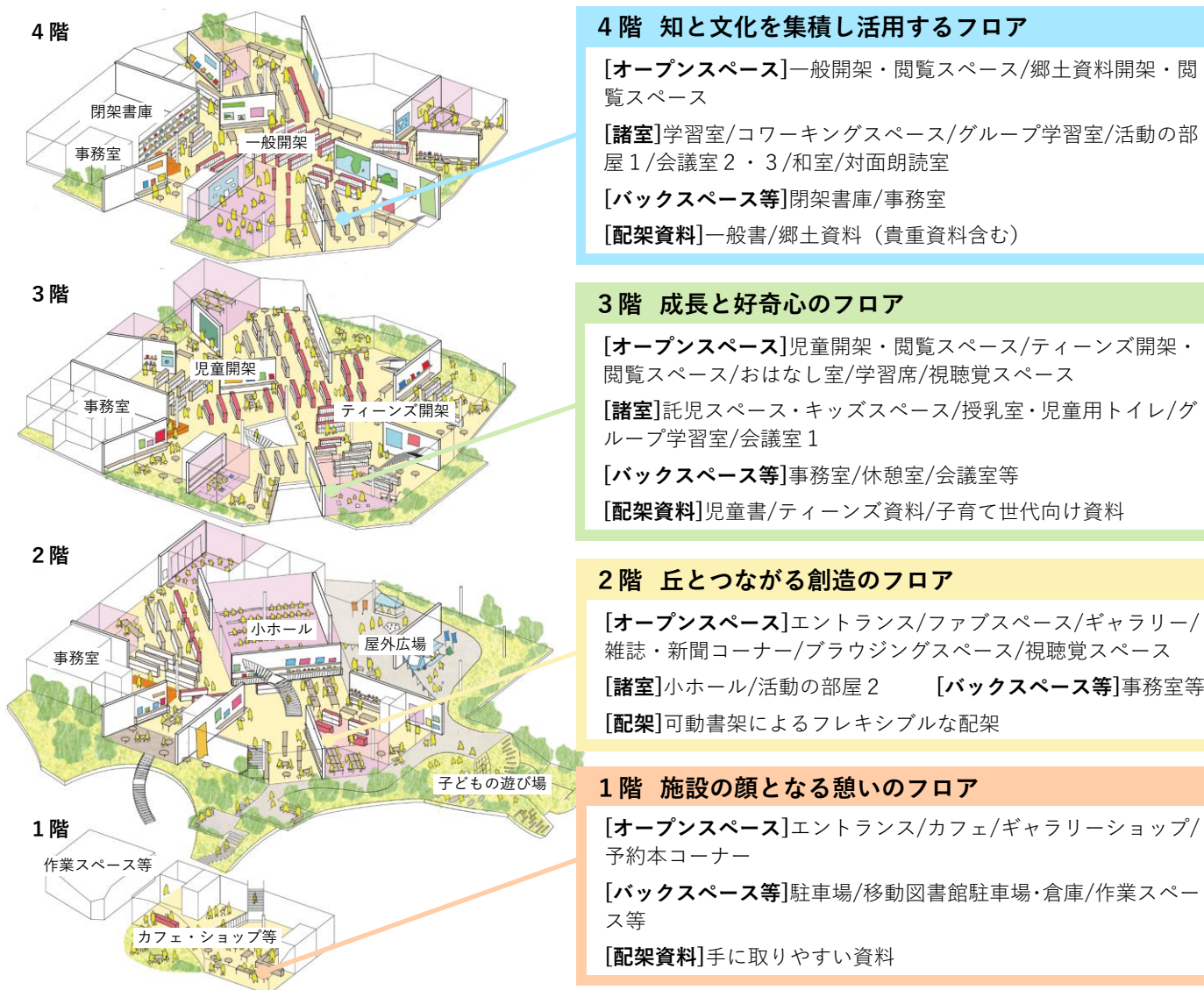
表 新図書館に必要な諸室

項目	諸室・スペース
従来の図書館機能	- 低書架でゆとりのある開架・閲覧スペース - 静かに学習や読書ができる学習室 - 会話しながら学習できるグループ学習室 - C D・D V Dが視聴できる視聴覚コーナー - ゆったりとくつろげるブラウジングスペース - 新聞・雑誌コーナー - 利用者自身で予約本を貸出しできる予約本コーナー - 市民の作品等が展示可能な展示コーナー - 託児スペース・キッズスペース（統合を検討） - 事務室 - 閉架書庫（歴史的公文書含む） - 移動図書館の書庫・駐車スペース 等
生涯学習機能	- 防音機能を備えた小ホール - 規模に応じ柔軟な利用が可能な会議室 - ダンス等の運動や講座・講演等が可能な「活動の部屋」 - ギャラリー - 自由度の高い活用が可能な和室 - P C、電子工作機器等を設置したファブスペース 等
新たな機能	- 読書も可能なカフェ - ギャラリーショップ - P C作業が可能なワークキングスペース - 児童用トイレ・授乳室 - ユニバーサルデザインに対応した施設・設備 - イベントや子どもの遊び場となる屋外広場 等

ゾーニング及び配架方針

- オープンスペースを基本とし、下図のとおり従来の図書館機能・生涯学習機能の諸室を各フロアに分散配置
- 資料の探しやすさに加え、思いがけない本との出会いや地域の魅力発見等の視点も重視して配架を計画

図 施設全体イメージ



蔵書・施設規模目標

- 収容冊数は 33.3 万冊を目安とし、歴史的公文書の書庫への保存も想定されることから、閉架は最大 60%程度と設定
- 施設全体の面積は 5,000 m²で、うち従来の図書館機能は 3,600 m²、生涯学習機能は 1,000 m²、新たな機能は 400 m²と想定

ICT計画

- ICTシステムの導入及び機器類の適切な配置により、資料の貸出・返却や予約受取等のセルフ化を促進
- ルーティーン作業・単純作業の効率化により、司書の専門性を活かしたサービスに注力することが可能となり、司書と利用者のコミュニケーションの活発化に寄与
- その他、座席管理システムやデジタル工作機器等の ICT機器を通じて、利便性の向上やクリエイティブな活動の支援を検討

表 新図書館の施設規模及び収容冊数

項目	面積	収容冊数
従来の図書館機能	3,600 m ²	333,000 冊
一般図書エリア	1,750 m ²	86,000 冊
児童図書エリア	950 m ²	47,000 冊
バックスペース等	900 m ²	200,000 冊
生涯学習機能	1,000 m ²	
新たな機能	400 m ²	
合計	5,000 m ²	333,000 冊

5 管理運営計画

開館時間・休館日

- 開館時間・休館日を右表のとおり想定
- 専門的な図書館サービスは 19 時までとし、19 時以降は自動貸出機等によるセルフ貸出・返却や諸室の利用のみを想定

表 開館時間・休館日（想定）

項目	現施設	新図書館（想定）
開館時間	図書館 9:30～18:00 生涯学習センター 9:00～22:00	9:00～21:00*
休館日	月曜、祝日、年末年始 館内整理日、蔵書点検期間	年末年始、館内整理日 蔵書点検期間

※専門的な図書館サービスは 19:00 まで

管理運営体制

- 現在より施設規模が大幅に拡大することを踏まえ、ICTシステム等を活用して管理運営を最大限効率化するように検討
- 毎年必要な人件費について、5,000 m²かつ 4 フロアとなる新図書館で ICTシステムを導入した場合、直営では 193,000 千円、民間活力の活用による運営では 139,000 千円と試算

6 事業計画

スケジュール

- 令和 7 年 1 月の開館を目指し、基本設計を令和 4 年 3 月、実施設計を令和 4 年 11 月に完了予定
- 令和 5 年度からは建築工事と並行する形で具体的な開館準備を開始
- 図書館システムのリプレイス時期等を踏まえ、遅くとも令和 6 年 9 月には現図書館を閉館して移転開始予定

事業費概算

- 施設整備の総事業費及び開館後に毎年必要な運営費用を下表のとおり試算
- 今後、詳細な事業内容を決定する中で、補助金等の活用を見据えつつ、事業費の縮減を検討

表 概算事業費（想定）

①総事業費

項目	金額
建設工事費	2,510,000 千円
家具費	312,000 千円
書籍購入費*	286,000 千円
ICT関連費	74,000 千円
合計	3,182,000 千円

※14.3 万冊を新たに購入する場合

②運営費用（年間）

項目	金額	
	直営	民間活力の活用による運営
人件費	193,000 千円	139,000 千円
施設維持管理費	42,000 千円	42,000 千円
ICT関連経費	48,000 千円	48,000 千円
合計	283,000 千円	229,000 千円